

「認証レスキュー！」と「ProtectKit」の機能・用途比較表

項目	認証レスキュー！	ProtectKit
想定アプリケーションベンダ	ライセンスの発行や管理システムを簡単にかつ短期間で構築したい場合に最適。 ソフトウェア製品のアクティベーション形態として最も一般的な形式。	ライセンスの発行や管理をシステム化しない場合を想定。
製品の提供形態	プロジェクトソースおよびサンプルデータベースなど	DLL およびユーティリティ(プロテクト設定情報ツール)など
製品の開発者ライセンス	開発者・開発 PC 数無制限	1PC ごとに 1PC 開発ライセンスが必要
標準価格(税別)	280,000 円	95,000 円
認証方法	インターネットが利用できる環境であればサーバーによる完全な自動化が可能。非営業日でもエンドユーザの認証に影響がない。	電話やメールで PCID とパスワードの連絡が必要で、人が介在する必要がある。
ライセンスの発行や管理システム	基本的な機能がプロジェクトソースおよびサンプルデータベースで提供されているので、自動化およびシステム化の短期構築が可能。	なし
Web サーバー(IIS) SQL Server	Web サーバーおよび SQL Server が必要。	不要。
Web システム、社内基幹業務システムとの連携による拡張性	プロジェクトソースでの提供であり、カスタマイズが自由である。そのため既存システムとの連携によるデータの共有やシステムの相互運用なども可能となる。	製品にあらかじめ用意された機能やオプション以外での利用はできない。
Win32 対応	.NET アプリケーションに対応。 ただし、Win32 アプリケーションから「認証分だけの.NET アプリケーション」を呼び出すように配布アプリケーションを作成すれば利用できる。	Win32 および.NET アプリケーションで使用可能。
LAN 内の不正利用検出	なし。	ネットワーク監視型を利用できる。
レンタルや体験版としての応用	独自コードが必要。 ユーザーズガイドの P.35 にヒントを記載。	使用回数、使用期限などの設定オプションがある。